

令和3年度 第1回小平市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年7月12日（月）午前10時から11時28分

2 場 所 小平市役所 6階大会議室

3 出席者

(構成員) 小平市長	小林 洋子
教育委員会	
教育長	古川 正之
教育長職務代理者	三町 章
委員	山口 有紀子
委員	丸山 憲子
委員	青木 雅代

(構成員以外の出席者)

有川企画政策部長、川上教育部長、国富教育指導担当部長、安部地域学習担当部長  
相澤政策課長、市川教育総務課長、事務局職員2名

(傍聴者) 1名

4 会議内容

午前10時 開会

(開会宣言)

○小林市長

皆様おはようございます。小平市長の小林洋子でございます。

定刻になりましたので、ただいまより令和3年度第1回小平市総合教育会議を開催いたします。

本日は、私が市長となって初めての総合教育会議となります。どうぞよろしく願いいたします。進行につきましては、会議の主催者である私がつとめさせていただきます。

教育長、及び教育委員の皆様には、日頃より、小平市の教育行政の推進にあたりまして、ご尽力いただき、改めて感謝を申し上げます。また、引き続いております新型コロナウイルス感染症への対応におきましては、小平市新型コロナウイルス感染症対策本部を通して、市、及び教育委員会が連携を図りながら対応に当たっており、市と教育委員会が連携しながら教育行政を推進していく必要性を強く感じております。

本日の会議を通して、教育委員の皆様と、今後の教育行政の方向性について共有してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(協議事項)

それでは本日の協議に入ります。

テーマは「小平市の教育に関する大綱について」でございます。

現在の、「小平市の教育に関する大綱」は、平成27年度、総合教育会議における協議を経て、小平市の教育振興のための施策に関する基本的な計画である「小平市教育振興基本計画」の第3章「教育の目標」を大綱として位置付けるものとして策定されました。

その後、平成29年度に「小平市教育振興基本計画」の改訂が行われましたが、「教育の目標」については変更が無かったことから、大綱の改定は行わないことといたしました。

一方で、大綱の見直しについては、市長の任期などを踏まえることが想定されております。

今回は、市長の交代を経て初めての総合教育会議でございますので、教育委員の皆様のお考えなどを伺った上で、大綱の取扱いについて確認したいと考えております。

それでは、まず始めに、「小平市教育振興基本計画」の概要と進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

## ○川上教育部長

「小平市教育振興基本計画」の概要と進捗状況について、ご説明いたします。

「小平市教育振興基本計画」は、教育基本法第17条第2項に掲げられている「地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として、当市の教育が目指すべき方向性と、その実現のための施策を明示し、これらを総合的・体系的に推進する計画として、平成25年2月に策定したものでございます。

計画の位置付けとしましては、「小平市第三次長期総合計画」基本構想の教育分野における個別計画という意味を持ち、「小平市特別支援教育総合推進計画」「小平市次世代育成支援行動計画後期計画」「第2次小平市青少年育成プラン」などとの整合が図られております。

本計画は第1章から第5章までの構成となっており、第1章では、計画の基本的な考え方について、第2章では、市の教育の現状と課題を提示しております。

第3章「教育の目標」では、めざす人間像として「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」を設定したうえで、「自立」「貢献」「共生」と深く関わる具体的な3つの目標を掲げました。

第4章では、基本的な施策、重点プロジェクトについて掲げ、第5章では、計画の推進にあたって、進捗状況の把握と公表について記述しております。

以上の構成となっておりますが、計画では、小平市の教育が目指す人間像を実現するための基本理念を「はぐくみ・支え合い 学びでつながる 小平の人・まち・未来」とし、今後10年間で取り組む具体的な目標を3つ設定いたしました。

目標1は「将来の社会を支えるすべての子どもの「生きる力」をはぐくみます～自立 小平で基礎を培う」でございます。

目標2は「学校・家庭・地域が互いに育て合い、子どもを支えます～共生 小平で共に成長する」でございます。

目標3は「市民が支える新たな生涯学習を実現し、次世代に引き継ぎます～貢献 市民が小平を育てる」でございます。

そして、以上の3つの目標を達成するための15の基本的施策を示しております。

この基本的施策に基づき、学校、家庭、地域など教育に携わる者が連携を図りながら取組を進めてまいりましたが、計画策定から5年が経過する平成29年度に、計画に掲げる数値目標の達

成状況を確認し、これまでの取組を検証するとともに、様々な社会情勢の変化などを踏まえ、計画の後半5年間で達成を目指す数値目標の設定や取組の検討を行いました。

策定時と同様に、市民や児童・生徒、保護者などを対象としたアンケート調査を行い、経年比較による数値目標の達成状況を確認し、改めて数値目標の設定を行うとともに、主な施策、重点プロジェクトに掲げる項目や内容の変更を行い、計画の推進を図ることといたしました。

教育委員会では、本計画に掲げた目標を達成するため、毎年度、年度ごとの実施計画となる「小平市教育振興基本計画の基本的な方向及び主な取組」を定めており、翌年度にこれに対する点検・評価を行っております。この点検・評価に当たっては、有識者から指導・助言をいただいております。有識者からは一定の評価をいただいた取組が多くございますが、「一層充実」等いただいたご意見を事業改善に生かし、計画の推進及び教育の振興に取り組んでおります。

なお、本計画は令和4年度末までを計画期間としておりますが、社会状況が大きく変化する中、教育を取り巻く環境も大きく変化し、新たな教育課題への対応が求められております。

Society5.0 社会の到来、ICTを活用した教育の充実、新型コロナウイルス感染症、地域と学校の連携・協働の再構築及び深化については、喫緊の課題と言えます。こうした新たな教育課題に対応し、更なる教育の振興を図るため、本年度に現行計画の達成状況の確認等も含めた実態調査を行うなど、新たな計画の策定を進めてまいります。

説明は以上でございます。

## ○小林市長

それでは、皆様から、「小平市教育振興基本計画」の進捗状況を踏まえまして、今後に向けた課題意識などを伺ってまいりたいと思います。

初めに、山口委員、よろしく願いいたします。

## ○山口委員

昨年から続きます新型コロナウイルス感染症は、社会にも教育現場にも大きな損失や犠牲を強いてきました。しかし、それと同時に教育に関する数年来の課題については、ある種の方向性が見える契機にもなったと考えています。

学校でGIGAスクール構想がスタートしていますので、ICTの活用が急務であるというのは大前提ですが、私自身がコロナ禍を経験して改めて認識したことは、子どもたちに新しい時代の教育を展開していくためには、学校を含めた私たち大人の意識を、まずはしっかりとアップデートする必要があるということでした。

ここ数年の社会変化のスピードはとても速いものでした。例えば、GIGAスクール構想の着手にあたっては不慣れ、難しい、ついていけないという声から大人から聞かれました。しかし、私たち大人は、自分自身がIT機器を使う、使わないに関わらず、ここ数年の社会がIT機器の出現によって劇的に変化したという事実をまず理解しなければならないと思います。不慣れ、難しい、ついていけないなどといって、時代変化への適応、アップデートそのものをあきらめてしまうのは、私たち大人にはもはや許されないのではないのでしょうか。

「小平市の教育に関する大綱」には「生きる力」や「自立」というキーワードが出てきます。例えばコロナ禍のものと教育現場で、環境や状況を個々で判断して柔軟に、かつ、果敢に動いて

くださった学校管理職や地域の方々がいらっしゃいました。

しかしその一方で、ルールが定まらないから行動できない、責任の所在が明確ではないなどという理由で活動や思考が停滞してしまった大人も多かったように感じます。

このように不確定なルール・状況を前に、変化や挑戦に躊躇した大人の姿は、教育に関する大綱の「生きる力」や「自立」の観点からみてどうだったでしょうか。

子どもたちの「生きる力」や「自立」を教育に関する大綱に定めるのであれば、まず大人がその姿を見せられたかどうかということを変更して検証する必要があるのではないのでしょうか。

また、教育に関する大綱では「共生」という言葉も出てきます。私たち保護者は、学校に足を運ぶことで、先生や他のご家庭のお子さんの顔を覚えていきます。また、地域の方々と活動を共にすることで、徐々に皆さんのお考えや活動の様子を理解していきます。子どもたちもまた、学校に出入りする保護者や地域の方に声をかけてもらうことで家族以外の大人を信頼し、先生方の考え方を理解していくものだと思います。

しかし、かつては通常の生活の中で、自然と行われてきたこういった繋がりづくりが、今回のコロナ禍でほぼストップ状態となりました。中には、顔を合わせるからこそ続いてきた関係が、この1年半でだいぶ清算されてしまったということもあるかもしれません。

「共生」の概念は、日々の何気ない活動の中で積み重ねられるものであると同時に、その活動が停滞すると、いとも簡単に綻んでしまうということも、今回私は改めて感じました。

コロナに限らず、近年は共働きや他地区からの転入者などが増えてきています。学校、地域、保護者が、直接学校で顔を合わせなくても育てていけるような新しい繋がりづくりのかたちを、私たちは早急に見つけていかなければならないと思います。今回のコロナ禍で、大人たちの繋がりが薄れていっている間にも、子どもたちは日々成長しています。

また、教育に関する大綱では「貢献」という言葉も出てきています。コロナ下の外出制限で、地域での活動や学習に初めて興味を持った方も多いのではないのでしょうか。しかし、様々な活動が停滞する中で、いざ地域デビューしようと思ってもどこの誰に相談したらよいか分からないという方も多かったと思います。

今まで長きにわたって地域や社会教育の発展に貢献してくださったベテランの方も多くいらっしゃいますが、新しく興味を持った若手とベテランがうまくマッチングされておらず、地域活性化のチャンスが日々見逃されているように感じます。

I C Tの活用を進めたいのにベテランが良い顔をしない、若手は人とのつながりを無視して合理性ばかりを重視する、といった、ベテランと若手が対立するような意見も多く聞かれました。子どもたちは今、学校で多様性について学んでいるところです。個々の違いは尊重しつつ、それぞれが強みを生かした、貢献し合える関係づくりをまずは大人たちが実践していかななくてはならないと思います。

小平市の掲げる「自立」「共生」「貢献」のキーワードについては、今後の子どもたちの未来を見据えた教育のあり方を的確にとらえているものだと理解しています。ただ、この理念を教育の場で展開していくのであれば、まずは、私たち大人がこれらについて理解して実践しているということが大前提になると思うのです。

理想の教育について、大人が自分たちを棚に上げて展開していこうとするのであれば、子どもたちは全く納得できないと思います。

今の子どもたちは本当に賢くて、大人のことを良くも悪くも非常に冷静に、本当に的確に捉えています。

私たち小平市の大人が、「自立」「共生」「貢献」という理念を自分たちで体現できているかどうか、今改めて見直してみる必要があるのではないのでしょうか。

本当に激動の時代です。私たち大人がIT機器をどの程度理解できるのか、ICTを個人がどれくらい活用するのかは別にして、価値観や意識のアップデートは怠ってはいけません。

子どもたちには、尊敬しあこがれる大人を見ながらのびのびと育ってってもらいたいと思います。小平市が、アップデートをあきらめない、子どもたちが憧れる大人がたくさんいるまちであるといいと、自戒を込めて今回私は改めて思ったところです。

#### ○小林市長

ICTとなるとハードルが高いとあきらめてしまう方も中にはいらっしゃるかもしれませんが、やはり子どもに言う前に、まずは、私たち大人がというのを今のお話を受けて改めて感じました。

せっかくなので今の山口委員のご発言を受けて、感想や思いを語っていただけたらと思いますが、三町教育長職務代理者いかがでしょうか。

#### ○三町教育長職務代理者

大人の責任というのは本当に大きいと思います。例えば、今の高齢者は情報弱者だと言われますが、情報弱者に自分からなっている傾向もあると思います。私はスマホではなくガラケーで良い、それで生活ができてしまう、という感じです。ところが、いざ必要になったときに使えない。

やはりいくつになっても、自分なりに新しいものを磨く必要があると思います。限界があればそれをサポートするのが行政の仕事だと思います。

大人も常に学び続けるという姿勢を持たないといけないし、またそれを働きかけていくのも我々の仕事だと思います。

#### ○小林市長

ありがとうございます。

丸山委員いかがでしょうか。

#### ○丸山委員

ICTの関係については、情報をいかに選択するかということだと思います。ツールとして使っている、いかに情報を選択するかというのはなかなか学べないことです。大人もそうですし、子どもはなおさらそこからどのように受け取るか。今のSNSをめぐる子どもたちの問題でも明らかになっていると思います。

そのような意味で、まずは自分たちがこの三次元の実社会でどのように生活するか、どのように考えるかというのが重要なのではないかと思います。

### ○小林市長

まずは大人がどう関わっていくかというのをしっかりと示していくということですね。  
青木委員はいかがでしょうか。

### ○青木委員

子どもは本当によく大人の姿を見えています。大人が考える教育に関することは、子どものこと  
と思いがちですが、見本となるような大人の姿を見せることが大事だと思います。

子どもにボランティア活動をしなさい、きちんとした情報を得なさいと言っても、それをきち  
んと大人ができているかという、難しいところがあると思います。

子どもだけでなく、市民全体が1つの目標に向かって子どもを育てていくというように進めて  
いけたら良いと思います。

### ○小林市長

生涯学習という切り口で考えると、子どもだけではなく、大人も常に学び続けなければならない  
という部分もあります。教育に関する大綱は、子どもに対するものだけでなく、全ての人に関  
わってくるものであるということになります。

古川教育長いかがでしょうか。

### ○古川教育長

毎月、学校訪問を教育委員の皆様とさせていただいていますが、やはりどの学校も積極的にI  
CTの活用に取り組む姿勢を感じています。大型テレビに端末を使ってデータを送り、それを子  
どもたちに見せるという授業が進んでいると感じました。

ICTに関しては、子どもの自立を支えていくために大切なものだと感じました。

### ○小林市長

学校内で活用しているICTと、さらに進んでオンラインでどう活用できるのかとでは、二段  
三段、まだ先があるのではないかと考えています。そういった課題については皆で考える必要が  
あり、得意な人だけに任せて良いものではないと考えています。

ICTの他にもいろいろと課題を提示いただきありがとうございます。目標にあります「自立」  
「共生」「貢献」という部分について、ICTも絡めながら、そして新型コロナウイルス感染症の  
ことも考えながら、教育のことをしっかりと考えていく必要があると思います。

それでは続きまして丸山委員よろしく申し上げます。

### ○丸山委員

私は博物館の学芸員養成課程を担当しているので、そのような立場からお話しさせていただ  
こうと思います。

博物館と一口に言っても博物館という名称ではなくても、資料館や科学館、動物園、植物園、  
水族館、美術館、記念館などそれらもすべて博物館に分類されています。博物館を博物館たらし  
めるものは実物資料、本物です。例えば、美術館であれば絵画や彫刻、考古博物館であれば縄文

土器や石器などで、博物館の展示室で展示されている本物です。

皆様が博物館を見学する時、本物を見て納得し、感動していると思います。博物館に行って、本物に対峙して、その空気を共有しなければその感動や納得は成り立たないと思います。

今日コロナ禍において、外出自粛要請が出され、やむを得ず博物館の中にはインターネットで展示室の公開や、資料の解説をしているところもありますが、オンライン上では実際に行ったような感動を味わうことはできないと思います。

例えば、テレビやインターネットでおいしそうなのが紹介され、それを食べた人の感想を聞いたり、読んだりしていると思いますが、実際自分で食べてみなければおいしさは分からないと思います。実際食べてみたら私の口には合わなかった、そこまでおいしくなかったという感情が出ることもあります。

また、コンサートやライブに行き、たとえアーティストが豆粒のように小さく見えたとしても、家で動画を見たり、音楽を聴いたりするのとは比べようのないぐらいの興奮や感動があります。それは、遠く離れていてもアーティストと空気を共有しているということを実感できるからです。そのような体験が自分の身体の一部になっていると思います。

自分で聴いた、やった、味わったという実体験や経験というのは、決してインターネット上の、いわゆる仮想体験では得られないものだと思います。このように実体験を大切にすることというのは、小平市の教育でも積極的に取り入れていただきたいと考えています。

もちろんこうした経験というのは、間接的に学力向上や、豊かな心の育成に繋がりますし、子どもだけでなく、老若男女すべての人に言えることだと思います。

今日のGIGAスクール構想であるとか、ICTであるとか、そのようなものの活用を否定するものではありませんが、Society5.0時代が到来して、私たちはサイバー空間やデジタル空間が融合した世界の中で生きており、そうした時代だからこそ実体験、経験などをより充実させなければ勘違いや間違っただけの偏見を生んで、現実がゆがんだものになると思います。

若者のゲーム障害が社会問題になっていますが、実社会の生のおもしろさや興奮が希薄になっているからです。スポーツをする、ライブに行く、山登りを楽しむなど、三次元のことが大切で、実際にコロナ禍においては、コンサートに行くなどのライブ活動や余暇活動は制限されていますが、コロナ禍だからこそなおさら、日常生活に必須であると皆様感じていると思います。

このような活動をすることは、人にとって精神的にも肉体的にも重要なものであり、生涯学習や学校教育で網羅できていると思っています。

例えば、小平市では、文化資源として平櫛田中彫刻美術館や鈴木遺跡、小平ふるさと村、ふれあい下水道館、コンサートを観る、聴くことができるルネこだいらなどがあります。また、それ以外にも玉川上水や畑など、様々な地域の資源があります。

そのようなものを実際に、生涯学習、社会教育、学校教育に活用するべきであって、特に鈴木遺跡は今年国指定史跡になり、旧石器時代にこの地でキャンプをしていた物的証拠もあるので、そういった文化財がある、歴史があるということも含めて積極的に啓発するべきだと思います。

もちろん遺跡にとどまらず、様々な民俗資料や、武蔵野手打ちうどんのような食文化など、小平という風土に培われて今がある、今に残っている文化を行政として守って活用していくべきだと思います。地元の生きた教材は、身近にあるというだけではなく、学習効果も大きいです。そこから郷土愛や、ここで育ったという気持ちが育まれると思います。それを行政として活用す

るべきだと思います。

最後に博物館に戻りますが、博物館には学芸員がいて、学芸員が資料を管理して、それを100年、200年残していくということをしています。または、それを展示する活動をしています。

博物館にどんなに良いものがあったとしても、学芸員の存在というのは重要です。それを小平市に当てはめると博物館にとっての学芸員、教育にとっての人という存在は大きいと思います。

この教育に関する大綱でも、学校サポーターの連携や地域を生かした教材、人材の活用、青少年、地域と連携した、という文言が多くあります。全てのことについて、人を育てる、人が育てるということに尽きると思います。人の存在も大きいですし、人を発掘するのは行政が積極的にやっていかなければならないと思います。

また、違った方面から人を考えるときに、コミュニケーションというのも重要です。学校においてクラスメイトと授業を受けることや、意見を交換する、先生と会話をするなど、生身の人間とコミュニケーションをとることは、学校生活や公民館などの社会生活でも重要です。

コミュニケーションというのは自分と違うことを見つけて、他者の理解や多様性を感じるというところにおいてとても必要なことで、これが教育に関する大綱にもある「共生」に繋がっていくと思います。

教育に関する大綱には様々なことが盛り込まれていますが、市民や子どもにたくさんの可能性という星がちりばめられていると思います。夜空の星が線で結ばれて星座になるように、行政が人や資源をうまく繋ぎ合わせてたくさんの星座をつくってほしいと思います。

なかなかまとまらない話になってしまいましたが、そのような意味で、今、まさに話しているというライブ感が出ました。私からは以上です。

### ○小林市長

実際の物に触れていくというのは本当に大切だと思っております。丸山委員の話の冒頭にあった水族館が博物館に分類されるということを私は知りませんでした。1つ勉強になりました。ありがとうございました。

実際に実物に触れるという点では、水族館も動物園も博物館も美術館も大切なものなのではないかと思います。そして、その上で学芸員がいるのは本当に重要だと思います。

鈴木遺跡は旧石器時代の遺跡で、あるだけでは「石」なだけですが、学芸員がいてその石に命を吹き込むという意味で、学芸員は本当に大事だと思います。

三町教育長職務代理者、ご感想をいただけますでしょうか。

### ○三町教育長職務代理者

小平では「地域資源」という言葉を使っています。その中でも変わっていくものとして、畑や果樹園に家やマンションが建つことがあるでしょう。一方で、鎌倉公園のように都市整備をする形で農地を残そうという動きもある。消えていくものもあるが、新たに残していくところもある。

鈴木遺跡もこれから整備されて、市民にとって身近なものになっていくと思います。また、学園西町に小平新文化住宅という建物があります。大正時代の生活を追求されている方が住まわれていますが、実際にその時代の木造の建物が建ち、物自体も木で作られている。一角だけ変わっ



ているのですが、ある意味で文化が身近にあるというのが学びの場であると思います。自分が住んでいるまちへの愛着や、地域に住んでいるという自覚を高めるための大切な道具ではないかと思ひます。

より一層そのようなものを大切にしていふ、支援するといふことが大切だと思ひました。

#### ○小林市長

小平市にあるものを大切にしていふ、それを教育に結び付けていふといふことは本当に大事だと思ひます。

青木委員はいかがでしょうか。

#### ○青木委員

私もまた、実体験が大切だといふことを申し上げようと思ひていました。小平には素晴らしい環境が整っていると思ひるので、それを生かせるような施策などができれば、教育の目指す人間像の目的に沿った教育ができるのではないかと思ひます。

#### ○小林市長

ありがとうございます。

山口委員はいかがでしょうか。

#### ○山口委員

先ほどのICTやIT機器の活用といふところで、シニア世代の方が情報弱者であるといふお話がありました。では、IT機器やICTを理解している世代が勝ち組で強いのかといふと、それは全く違ふと思ひます。

実物資料と対峙してこそ得られる体験といふお話が丸山委員からありましたが、実体験の良さや、方法を知っているのは、情報弱者とくくられてしまうようなシニア世代です。

強い弱いや、どちらが正しい、間違っているではなく、お互いの強みを生かして貢献し合える関係づくりが今後はより求められると、お話を聞いて改めて思ひました。

#### ○小林市長

確かに情報弱者といふてしまうと負けている感じもしますが、それを補う人生の先輩の知恵があると思ひます。それに加えてICTの力によって、シニア世代の持っている知識をもっと広く共有できるようになれば、それはそれで強いのではないかと思ひます。

おっしゃっていただいたように共有して、融合していけたら良いのではないかと思ひました。

古川教育長はいかがでしょうか。

#### ○古川教育長

先ほど丸山委員の話を知いていて、小平は素敵なまちだと思ひました。複数の学校で玉川上水について学習したり、また、地域の方がいろいろ教えてくださったり、さらにはそれが大人になって社会教育として良い発展をしているのだと思ひました。

また、この度国指定史跡となった鈴木遺跡のことは本当にうれしく、子どもたちにとっても郷土の誇りになりますし、愛するきっかけになるのではと思います。

子どもたちに、小平市が大好きだ、小平市に貢献しようという気持ちが育っていくのではないかと思います。

### ○小林市長

地域にいろいろなものがある中で、小平市は広報がうまくできていないといろいろな方から言われます。せっかく良いものがあるのにあまり知られていないところがあります。鈴木遺跡しかり、玉川上水しかり、教育を通してそれらを皆様に知っていただくということもそうですが、好きになってもらうというのもひとつ大切であると思っております。

次に青木委員、よろしくお願いいたします。

### ○青木委員

新型コロナウイルスの感染対策をしながらの生活の中でいろいろなことを私たちは学び、気づかされてきたと思います。たった1年半の間にずいぶんと生活が変わりました。

その生活の中で、私たちはできることを模索しながら活動を続けているところです。コロナ禍において様々な学校を訪問させていただきましたが、各学校が感染対策をしながら様々な取組をし、子どもの活動を続けていました。

この経験を生かし、その時代にあった活動を今後も考えていかなければならないと思いました。また、この状況下においては、限られた活動の中で本当に必要なものは何かを考えていくことが大切だと気づかされました。

山口委員や丸山委員もおっしゃっていましたが、実際に人と会い、交流し、体験することの大切さを感じました。体験、交流というと、私たちの生活の中ですぐに思い浮かぶものはもちろん学校で行う行事もありますが、地域のお祭りや各文化を伝える活動を各学区で行ってくださっている青少対活動を思い浮かべます。

その活動がこの1年半の間、ほとんど中止になったのは本当に残念です。今後も交流や触れ合いながらの体験というのは、戻るのが難しいかと思いますが、地域の方々の力は今後も子どもたちの成長に生かしていけたらと思っています。

新型コロナウイルスの感染が広がる前は、防災に関する行事を行う地区も増えてきていたように思っていました。コロナ禍のもとであっても災害は関係なく起こります。そのような時に地域の役割は大きいと思いますので、防災意識を高め、そのようなことが起こったときの体験ができる場を今後開催できたら良いと思っています。

こうして小平市内の様々な活動を見ていると、青少対だけでなく、地域の方々の協力を得て、子どもの成長を見守り、促してきた活動はたくさんあります。教育に関する大綱に挙げられている「学校・家庭・地域が互いを育て合い、子どもを支えます」という「共生」の体制というのは整ってきていると感じています。

コミュニティ・スクールを設置する学校も年々増えてきていますし、放課後子ども教室や登下校の見守りも地域の方々が多く携わってくださっています。特に登下校の見守りは、防犯面や交通安全面からも大切な役割を担っていただいていると思っています。

地域教育サポート・ネット事業として子どもたちの成長の場に、学校や保護者の方だけでなく、地域の方がボランティアとして携わってくださっているという状況は本当に素晴らしいと思います。

ただこうした取組がコロナ禍で中断されていて、今後の継続に不安があります。これらの取組の課題として世代交代や後進の育成ができていないということがよく挙げられています。やはり立ち上げの際のエネルギーというのはかなり大きく、その方々がかなり長く続けてくださっていますが、それを次の世代にもつないでいかななくてはなりません。

地域の力になってくださっているのは、元々は保護者の方々がほとんどだと思います。まずは、今の保護者の方々に学校に興味を持っていただき、協力できる体制を整えていくことが必要なのではと思います。

なかなか学校の様子を見られないこのような状況だからこそ、学校からの働きかけで保護者など関心を持ってくれる方が増えるのではないかと思います。そのような方々が卒業後も子どもたちの成長を見守り、地域の力となってくださると思います。

その中で、学校の活動と保護者や地域の方々を結ぶ地域教育コーディネーターの存在が重要になってくると思います。各学校間で情報交換をし、コロナ禍のもとでの活動や地域の力となる人材の発掘に今後も努めていただけたらと思います。

現在の教育に関する大綱では、小平で基礎を培い、小平で共に成長し、市民が小平を育てるという目標に向かい、体制としてはかなり整ってきていると思います。そこで、より具体的な取組をしていけると良いと感じています。

先ほど古川教育長もお話しされていましたが、時間はかかりますが、まずは子どもたちが小平の魅力を知り、自分の住んでいるまちを愛し、よりよくしたいという気持ちを持つことが大切だと思います。その子どもたちが小平に住み続けたいと考え、そのための環境づくりに積極的に参加し、それを発信することで小平の良さが広く伝わり、人が集まるまちになる。そしてそこで育った子どもたちが地域を大切に活動に関わっていくという循環ができると良いと思っています。

子どもたちに魅力を伝え、安全に育っていけるよう見守るのが地域の方々であり、小平市の学校に赴任した教職員の方々だと良いと思います。

丸山委員もいくつか挙げてくださいましたが、小平には歴史があり、素晴らしい自然環境がありますので、まずはそれを知り、体験することができたら良いと思います。特に体験という中では、小平には土が多くあります。この土に触れる体験というのを教育の中に取り入れると良いと思います。また、農家の地場野菜を学校給食に取り入れるような取組も、本当に素晴らしいと思います。食育の一環として土に触れ、育て、それを口に入れるという体験は続けていただけたらと思います。

こういった体験や交流が大切だと感じたのですが、コロナ禍においては急速にICT機器を利用した活動が増えました。情報を簡単に手に入れることができる現在ですので、早い段階から子どもたちに情報モラル教育を行っていく必要があると感じました。これらの機器は、うまく使えば教育現場での効果は大きいと思いますが、間違った場合は損失も大きいと思います。だからこそ、子どもたちに正しい情報を得られるような教育をまず早い段階で進め、一人一台の端末をうまく使いこなせるようになると良いと思います。

また、地域の行事などを記録して使うという方法もあると思いますので、そのような形でうまく使いこなせていけたらと思っています。

また、コロナ禍のもとであっても、連日報道されているような災害や、子どもたちが巻き込まれる事故や犯罪が起こっています。安心・安全な環境を一人ひとりが意識できる防犯や防災教育にも力を入れていく必要があると感じました。

いろいろ申し上げましたが、小平というのは人を育てるのに素晴らしい環境があり、それは自然環境だけでなく、人的な環境にも恵まれていると思います。子どもを育てることについて、学校に勤めている教職員だけが全てを担うのではなく、子どもたちの未来のために力を貸したいと思っている保護者や地域の方々が多いと思います。ただ、山口委員も話されていたように、どのようにコンタクトを取ればそのようなところに入っていけるのかというのが課題になっていると思います。そのような人を発掘する取組をする時期になっているのではないのでしょうか。また、これは地域の方々の生涯に渡っての生きがいにつながっていくのではとも思っています。

私自身は小平生まれではありませんが、子育てをしながら、小平は本当に良い環境だと感じています。子どもたちがこの小平を誇りに思って成長し、次の時代の担い手となってくれることを本当に心から願っております。

#### ○小林市長

最初に交流することの大切さについて話していただきましたが、コロナ禍で交流を避けて、人流を避けてということが言われてしまうため、本当に子どもたちの育ちという部分について憂慮しているところでございます。

そのような中で何ができるのかを学校で工夫していただいていると思いますが、根本的な部分では安心・安全のために人は入らないようにということになっているため、そこをどうやって乗り越えていくのかは、今後の1つの大きな課題と捉えているところでございます。

三町教育長職務代理者いかがでしょうか。

#### ○三町教育長職務代理者

今のお話の中のポイントとして、地域のネットワークの再構築をしていかなければ難しいのではないかと思います。それは人材もそうですし、新しい住民も増えてきてどのように関わっていくのかという点で、自分の都合の良いところだけ関わって、あとは人間関係が希薄になるというようなことがあります。

そこで期待したいと思っているのは、十一小が新しくなり、もう一度地域のネットワークを構築しようという、社会教育法の改正による地域学校協働本部の設置という、学校を核として、いろいろな人たちが発信して地域に還元するといった動きです。

そういうものを小平でどうつくっていくのか。単に地域任せや、学校任せにできないと思います。行政がいかに関わって耕していくのかがかなり重要なこれからの仕事になるのではないかと思います。

#### ○小林市長

青木委員の発言の中で、関わっている人は元保護者だったのではという話がありましたが、そ

うではない人も地域にはいると思います。子育てが一段落して、後から小平に来られた方にも、どのように積極的に地域に関わってもらえるのか、どのようにして関わってもらえるのか、ネットワークづくりや、人材の発掘などをどのようにしていくのかは、今後の非常に大きな課題だと思います。

丸山委員はいかがでしょう。

#### ○丸山委員

地域で子育てを終えた方や、ご高齢の方がコミュニティ・スクールなどに参加されたり、放課後子ども教室で学校に来てくださったりというのをよく見かけます。その人たちの生きがいにもなりますし、学校を中心にそのような人間関係づくりができるので良いと思っています。

ただ、それをいかに継続させるかが課題であり、それを今後考えていかなければと思います。そういった意味で、防災や防犯が関係してくるかもしれませんし、最終的にまちづくりに深く関わっていくものと改めて思いました。

#### ○小林市長

人をつくっていくというのは、まちをつくっていくこととイコールなのではないかと思います。山口委員はいかがでしょう。

#### ○山口委員

青少対やコミュニティ・スクールに後継者がいない、世代交代ができていないという話は、毎月学校訪問に行くところでも聞かれる話です。

私自身も外から転入してきて小平市に住んでいます。実際子どもを育てていてPTAの役員も何度かやらせていただきましたが、中心となる方々のネットワークがすでにできあがっているので、外から入る難しさを自分の体験からも感じています。

コミュニティの中心にいる方々はエネルギーが強いという話もありましたが、思いや活動の気づき、体験がコミュニティの中では共有されていてもそれが外には十分に見えていません。それが外から入る人の難しさの原因になっているのではないのでしょうか。

独自の文化ができあがっているのが良い、悪いというのではなく、できあがってしまっている事実があって、それが今、周りの人に共有されていないということであれば、それは今後積極的に開いていかなければならないと思います。

また、外から見ると閉じている感じがあるというのは学校や教育の現場にも言えることだと思います。意識のアップデートではないですが、これからはコミュニティの外からどう見えているのか、コミュニティの内側の人にどうやってコンタクトを取ったら良いのか、という視点での情報発信もより必要で、今までとは違う情報共有・情報開示の体制づくりも早急に考えていかなければならないとお話を聞いて改めて感じました。

#### ○小林市長

長くやっている方はそれだけの思いがあって長くやっておられるので、もちろん尊重はしたいですが、それだけでは新陳代謝ができないというのは大きな課題だと思っています。

また、閉じているように見えてしまう、新しい方を受け入れにくい、ある程度のコミュニティができたところに新しく入っていくのは難しいだろうと感じるところもあります。そういった中で行政がうまく絡んでいくのが良いのではないかと思ったところです。

古川教育長いかがでしょうか。

#### ○古川教育長

青木委員の話聞いて、土との関わりというのがありますが、そう考えると小平市は幸せだと思います。小学校全校に学童農園があり、農家の方のご協力もあって、毎年農業体験ができるというのは良いと思います。また、山口委員が話された課題もあるかと思いますが、青少対も熱心に活動していただいております。

また、青木委員が先ほど防災のことを話されていましたが、防災はともに生きるというのが大切だと思います。後から来ようが、昔から居ようが、そこで防災をやっていかなければならないのです。だから良いきっかけになると思いました。

#### ○小林市長

確かに防災の切り口というのは今どうしていかなければならないかが重要で、昔はどうしていたかはあまり関係なく、そういった意味では新しい方も入っていきやすいと思えました。

また、青木委員から先ほど情報モラル教育をしっかりとしていかなければという話があったかと思いますが。自分の子どものことを思い出したのですが、子どもは何でも信じます。親が言うことは信じないのに、ユーチューバーが言っていることは何でも信じます。テレビ画面で観るニュースも、ユーチューバーが言っていることも全部真実として捉える。

子どもはある意味純粋で、見たままを信じるというのは情報のモラル教育の大切さというか、親も分かっているいなければなりません。学校も地域も一緒に取り組んでいかなければならないのではないかと思います。

それでは三町教育長職務代理者お願いします。

#### ○三町教育長職務代理者

先に言われてしまったところもありますが、私が話したいのは基本的には教育というのはこうあるべきだという理念的な話になります。それと「小平市教育振興基本計画」の理念などをお話しします。

4年くらい前から、これからの時代はSociety5.0の時代だと言われていました。その時、AIやロボットに取って代わられる時代である、またIoTといわれるインターネットに全部つながって非常に便利な時代になると言われていました。実際便利になっています。

私の今の車はドライブレコーダーが保険会社とつながっており、事故を起こすと映像そのものも転送できるようになっています。今までは自分でやらなければならなかったことが自動化されたので、非常に便利な時代になってきているという変化を感じています。

一方、このような生活に慣れてしまい、そういうものが無い、いざというときに、自分で状況を判断し、適切に行動するだけの力が付くのかという不安もあります。そのような変化を身近で感じてきているところです。

小平の地域環境というのは変わっていくところ、また1つの関係が失われていくところもあるけれども一方でという前提で考えていきたいと思っています。

その中で教育を考える時に、その時代時代に不易と流行があるのだと思っています。時代時代に応じた流行の教育、それからやはりどんな時代でもしっかりと進めなければならない学びが不易だろうと思っています。

これは学校教育だけではなく、生涯教育全体を通してそれらを意識しながら進めていかなければいけないというのが大きな1点目です。

例えば、流行に関して都の教育大綱をみると、大きな柱にイノベーション人材の育成と書いてあります。これは小平に必要かといったらそうではない。例えば、学校教育でいえば、義務教育年代を小平でしっかりと育む、そのような人材になる素養をつける。しっかりと社会の変化などに柔軟に対応できる問題解決能力や、情報活用能力といったものを身につけるのが大事だと思います。

思考力や判断力などの基本的なものを育成するのが学校教育であって、学校が終わると社会に出て働くわけですから、そこでいろいろ学び、戻ってきてリタイアしても常に学んでいかないといけないと思います。そういったサイクルでいえば、世の中の動きに対して敏感に反応して、しかも自分も関わっていくことが重要だと思います。

学校教育としては基礎をしっかりと育てていかなければならないし、行政としては例えば図書館や公民館の活動内容をやはり見直していかなければならない。もっと言えばあり方そのものを見直していかなければならない。本当に今の公民館の形で良いのかなど、そういった見直しも含めて地域の人たちの支援内容を、流行という面で考えていかなければならないと思います。

一方でどんな時代でもしっかりとしていかなければならないのは、人としてより良く生きるということです。

学校教育でいえば心の教育、あるいは道徳と言われていますけれども、しっかり自分の行動や感覚を常に振り返ってそこからより良い生き方を考える。そのような気持ちや、あるいは自分以外の人の中で、思いやりや友情、また家族愛や人に感謝する心などです。

一方でそれだけではなく、やはり社会との関わりは絶対に必要です。社会の一員として生きていくための心というか、自分が組織の一員として、あるいは地域社会の一員としてどうあるべきかというのを考えて行動できる人間になってほしいですし、ひいては地域の誇りを持った子どもになっていくのではと思います。

そのためにはまずは家庭教育で、それを受けての学校教育での学びが大きいと思っています。そしてそこでの基本的な学びを、地域社会の人との関わりで道徳的な実体験をし、まったく違う視点に触れて学ぶと深められていくのだと私は思います。

そのために学校の教育の内容は、とことん質を変えていかなければならないし、行政としてはどのように家庭教育を支援していくのかということも重要だと思います。

都や市と連携をしながら、0歳児からの母親支援、家庭支援を絶対にしていかなければならないですし、一方で地域での学習として新しいコミュニティでの関係性づくりといったことを行政は強く求められると思います。

もちろん今、市長部局にお願いしていますが、体育、スポーツというものは基本的に健康維持や体力維持など、人間が生きていく上での絶対に必要な不易なもので、その中に道徳教育や必要

なものを加えているという状況だと思います。

それまでの不易と流行は押さえながら、バランスでいえば昔から知・徳・体の3つが言われています。その3つそれぞれに不易と流行があり、どこでどう学ばせていくのかを考えていかなければならない、これが教育の方向性だと思っています。

そのように不易と流行や、知・徳・体の調和というような視点で小平の目指す人間像を見ると、社会的な自立や心の部分、あるいは判断力や知的な部分であったり、地域社会への貢献であったりというところを重要視し、求める人間像としています。そして、より心だと思いますが、他者と認め合うという他者との共生など、きちんとした教育という押さえをしているなどと思います。

つまり方向性として、小平の目指す人間づくりというのは知・徳・体や、不易と流行を押さえたものになっていると思います。また、そのための目標もそれに沿ったような3つの柱で現在も作られていると思います。かなり小平市民の将来像を見据えたものとなっていると思っています。

流行の視点で求められる具体的な施策でいうと、例えば学校教育でいうなら、GIGAスクールの実現への支援です。基本的な整備は行った、あとは各学校でがんばってくださいというのではうまくいきません。そこにどう関わって支援していくのが非常に大きいと思います。

今年の4月、緊急事態宣言下の自治体で、小中学校も休校にしてオンライン授業にしたが、ほとんど失敗したという話があります。

1つは物理的な問題で失敗しています。小平もそうだと思いますが、高度な通信が入っているとはいえ、うまく動作しなかったことで、もう1つが人的な問題で、教員全員が十分に使えると思っていたが無理だったというところですね。結果として休校措置は早期に解除されたと聞いています。

それと同じ状態にしてはいけないので、研修以外にどのようにサポートしていかなければならないかを考えなければなりません。さらにもっと見据えると、学校の集団教育の良さと、情報端末を使った、より個別化した学習、その2つをバランスのとれた形にするのが小平の方向性として大事だと思います。

また、流行という点でのもう1つは、生涯学習に関わって先ほども少し言いましたが、地域学校協働本部から地域支援をできるようなネットワークづくり、これも簡単にすぐできるものではありませんが、5年10年先を見据えた中でつくっていくのが大きな方向性であると思います。

他にもいくつかあると思いますが、学校教育、生涯教育、地域支援が大きな柱になるところだと思います。

結論としては現在の「小平市教育振興基本計画」が今後2年で改訂されますが、基本的な教育の理念や現時点の進む方向性というのはこれで良いと思います。

## ○小林市長

冒頭でおっしゃっていただいた、いざというときに判断する力を子どもたちに身につけてほしいですし、そういった人を育てていくというのが大きな目標なのではないかと捉えているところです。

今、三町教育長職務代理者から大きなところでの話を伺いましたので、この後に古川教育長からお話しいただいて、その後に皆さんから本日の感想を伺いたいと思います。



## ○古川教育長

まず小林洋子市長には、教育行政に対する深いご理解とご支援をいただき感謝しております。また、4月市長に就任後は、早々にご多用の中、教育委員との懇談の時間を取っていただきありがとうございます。

さて、教育委員の皆さんからは、様々な視点から述べていただきました。私は学校現場、特に小平市では19年間、4校で教育管理職として勤めさせていただきましたので、感想も含め小平市の教育について考えを述べさせていただきます。

小平市の子どもたちは素直で明るく元気です。小平市の西側、東側と異なる4校で勤めましたが、その印象はどこでも同じでした。それは、保護者の皆様が協力的で、地域の皆様も学校を愛し支えていただいているからだと感じております。

教育の目的は、子どもたちが将来幸福に生きることができる力を身につけさせることだと思っています。子どもたちを育てることは、未来を創ることだと考えています。小平市の子どもたちは、学力、体力ともに向上しており、毎年東京都の平均以上の結果となっています。今後とも、基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせるとともに、全ての子どもたちに「生きる力」を育んでまいります。

さて、現在、新型コロナウイルス感染症により未曾有の危機に直面しています。今後時代の変化がますます激しくなり、不確実性が増すことが予想されます。その中で、子どもたち一人ひとりが自ら考え、様々な困難を乗り越えて生きていくことができるように、自立性や主体性などを育てていくことが大切だと考えています。長期の臨時休校を経験し、学校は子どもの成長を支える重要な場であると再認識されたことは嬉しいことです。教育のDXなど、学校教育の質を高めることが重要です。学校教育の質を高めていくには連携や協働が欠かせないと考えています。

「小平市教育振興基本計画」は、基本理念を「はぐくみ・支え合い 学びでつながる 小平の人・まち・未来」としており、教育施策を展開するにあたって、連携の視点と個性を生かす視点を重視しています。さらに、「小平市教育振興基本計画」の内容を実現するには、教育委員会と市長部局が協調していくことが大切だと捉えています。

先ほどから、市長の教育に関しての想いを伺っておりましたが、「小平市教育振興基本計画」と考えが大きく異なることはないと思いましたが、今後も市長と教育委員会との連携の強化を図ってまいりたいと願っております。以上です。

## ○小林市長

自立的で、主体的であるべき子どもたちに育っていくようにというところですね。ぜひ私も役割を果たしていきたいと考えています。

三町教育長職務代理者、そして古川教育長からもお話しいただきましたが、その感想と、また本日の感想を一言ずつお願いいたします。

では山口委員からお願いいたします。

## ○山口委員

今回の皆さんの話の中で、情報モラルやリテラシー、三町教育長職務代理者のドライブレコーダーの話もありましたが、元になるのはやはり人間の力だと思います。

思考力、判断力、コミュニケーション能力すべてにおいて元になるのは人間そのものの力で、ITやICTなどは人間の力や生活を補うものであるということです。

学校でもGIGAスクール構想を進めていて、ITやICT関連のものがどんどん導入されていますが、何でもかんでもGIGAスクール、ITでというのは違うのではないかと思います。

やはり人間力や基礎力あつてのGIGAスクール構想だということを大人も今一度しっかりと確認しなければならないと思いました。GIGAスクール構想で学校や家庭の教育の質が落ちてしまうことがないように、また、落ちてしまうのであれば本末転倒だと改めて感じたところです。

しかし一方で、これからの子どもたちはもはやIT機器なしに生きていくという事はあり得ません。私自身も子どもにゲームや動画視聴を許し、そこで子どもたちがある種の力を伸ばしている事実もあります。

私たち大人は、自分が子どもの時に周りの大人から教わった大切なことを今、子どもに教えてあげられているかということを時々確認しつつ、子どもたちがIT機器と共存する力を身につけることができる教育の質や環境を整えていかなければならないと改めて感じました。

#### ○小林市長

ITというのは手段であって、それを使ってどのような人間にしていくかということがこの教育に関する大綱なのだと思います。目的というところについてはGIGAスクールが目的になつては本末転倒ですので、そこをこの教育に関する大綱でしっかりと示していけばいいのではないかと思います。

それでは青木委員お願いいたします。

#### ○青木委員

「小平の教育に関する大綱」によって小平の将来を担っていく子どもたちが育っていくといいと思っています。そのためにやはり大人たちが見本となるような姿を見せ、今どんどん変わっていく世の中の流れの中でも正しいこと、正しくないことなどの情報の選択も含め、判断できる力を付けていくことが必要だと思います。

古川教育長の言葉にもありましたが、どの学校を視察しても小平の子どもたちは本当に元気で、明るくて素直なイメージが強く、このような子どもたちにより良い教育をすることで、小平の未来というのは開けてくるのだと感じています。

やはりその元をつくるのが教育委員会であり、小平市ですので、協力しながら子どもたちの将来を考えた道筋をつけてあげられたら良いと考えています。

#### ○小林市長

子どもたちは元気が一番ですから。それをぜひ教育委員の皆様とつくっていききたいと思っています。

それでは丸山委員お願いします。

### ○丸山委員

皆様のお話を聞いて、やはり主体的な学習というのが求められているのだと思います。そのためには学校でのプログラムや体制づくりというのが重要になってきますが、これを行う先生にとってもやりがいであるとか、新たな発見があるべきで、先生側の視点も忘れてはいけないと思います。施策展開のところで個に応じた支援を行うというのがありますけれども、先生方もそうですし、地域の人も、子どもも、保護者もそれぞれが自分たちの長所を生かして、そして育んでという視点が重要であると思います。

また、個に応じたという意味では、ICTなどの新しいツールを使うということが必要で、それをどのように使うか、その使い方とやり方をやはりよく検討していく必要があると改めて感じました。

### ○小林市長

ICTの使い方や取り組み方を皆で考える必要があるなと思います。

それでは三町教育長職務代理者、お願いいたします。

### ○三町教育長職務代理者

今回のお話を聞いて改めて考えたのが、生まれてから死ぬまでが横軸で、24時間を縦軸と考えると、家庭の時間が圧倒的に多いと思います。次に社会で学ぶ時間です。家庭と社会で学ぶというのがほとんどで、学校で学ぶというのは本当にわずかな時間だと思います。

このような場では学校教育に関する期待が大きいです。トータルで学びがきちんとできるような構造にしていかなければならないと思います。

その中で地域の人や、人に関わる大人の学びなど、これから70歳定年時代になっていくと、定年後に地域との関わりを持っていただくという意識の変革が必要で、いろいろな年代の人たちにどのように関わってもらえるか、それをどうやって行政が支援していくのかというのが勉強になりました。

### ○小林市長

三町教育長職務代理者からは、0歳のうちから関わってどのようにつなげていくかというお話をいただいたと思います。

そのように、小学校だけ、中学校だけに焦点をあてるのではなく、教育というのは長いスパンで見えていくものだとこのところで捉えさせていただけたらと思います。

冒頭で事務局から説明がありましたが、「小平市教育振興基本計画」につきましては、大綱に位置づけられている「教育の目標」の達成に向け、毎年度、点検・評価を行いながら、各施策の着実な推進に努めてきているものと理解をしております。

この間、いわゆるコロナ禍や、これを契機とするGIGAスクール構想の前倒しなど、教育を取り巻く環境にも大きな変化があり、本日、皆様からは、様々な観点からお考えをお話いただきました。ありがとうございました。

こうした変化や課題意識は踏まえながらも、現在、教育に関する大綱として位置づけている「めざす人間像」や「教育の目標」については、現時点で変更が及ぶものではないと思われま

また、現在の計画は令和4年度末までを期間としており、本年度から次期の計画策定に向けて着手をしていくということでございます。

こうした状況を踏まえまして、現在の「小平市の教育に関する大綱」につきまして、引き続き維持するものとし、また、今後「次期小平市教育振興基本計画」の策定に合わせて、見直しを行うこととしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

ご賛同をいただきましたことから、現在の「小平市の教育に関する大綱」は、維持するものといたします。

皆様、ご意見をいただき、ありがとうございました。

(閉会)

○小林市長

それでは本日の議題は以上でございます。

次回の会議は、現在のところ12月頃を予定しております。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束が見られない中で、GIGAスクール構想の取組などをはじめ、教育における様々な課題に関しまして、今後とも教育委員の皆様と方向性を共有し、連携してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで閉会といたします。ありがとうございました。

11時28分 閉会